



～若き心 集まる場所～ No.5

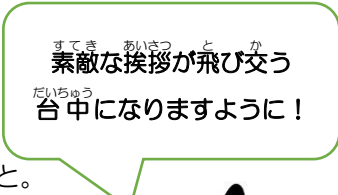
夏休み前特別号

茅ヶ崎市立鶴が台中学校長 力石 裕司

“挨拶力”の高い人になって台中を卒業して欲しい・・・(長文ごめんなさい)

4月に着任して3ヶ月半が過ぎました。「台中生と言えば挨拶！」の印象から、コロナ禍でのコミュニケーションの制限も影響してか、もっとできるはずなのになあと思うことも。それでも台中生たちは“比較的”挨拶ができる生徒であることは間違いありません。今は、残念なことに、挨拶ができない大人も増えてきています。伝統ある「挨拶ができる中学校」の生徒には、在学中に「挨拶で良好な関係づくりができる力」=「挨拶力」をもっともっと高めて、卒業して欲しいと強く思います。

そこで、保護者の皆様と、改めて挨拶の大切さについて共有したいと思います。この内容の一部は、夏休み前の集会で、生徒向けにも話したので、夏休み中のご家庭でも、様々な場面でお子様の「挨拶力」を育ててください。もちろん、私たち教職員も保護者の皆様も、生徒の模範となるようもっと「挨拶力」を高めていければと。



そもそも挨拶の目的は、①良好な関係づくりのきっかけとなる ②よい印象を与えられる ③緊張が緩和される ④感謝の気持ちを伝えることができる ⑤相手の承認

欲求を満たすことができる と言われていています。ということは、挨拶ができないと・・・

- ①良好な関係づくりの障壁になる ②印象が悪くなる ③人間関係の緊張感が高まる
- ③感謝の気持ちを伝えるのが難しくなる ④相手を嫌な思いにさせることになってしま

う恐れがあるのではないのでしょうか。

海外ではエレベータに乗り合わせると挨拶が交わされることが多いです。日本のホテルでも、海外からの旅行者は「Good morning!」「Have a good day!」と声をかけてきます。無言だと「何かしようとしているのでは」「怖い」といった印象をもたれるようです。日本でも、飲食店などに無言で入ってくる人や無言で出て行く人と、「こんにちは」「ごちそうさまでした、おいしかったです！」と言う人との印象の違いは明らかです。挨拶は「相手に心を開く=相手の存在を認めている」ということになると言われています。

積極的に挨拶してくる生徒やこちらの挨拶にしっかり返してくる生徒は、「きっと相手を選ばず誰に対しても挨拶をして周囲を幸せな気持ちにしてくれているのだろうな」、「社会に出てからも周囲から愛される存在になれるのだろうな」と感じます。一方、挨拶を返せない(返さない?)生徒を見ると、もちろん挨拶した側として残念な気持ちになります。それよりも「周囲に認められる人になれているかな」、「社会に出て周りの人と上手くやっていけるかな」、または「何か辛いことがあるのかな」など、とても心配になります。声は出せなくても、せめて会釈くらいからでもできるようにするといいですね。

「おはようございます」、「こんにちは」、「ありがとう」、「ごめんなさい」、「さようなら」・・・どの言葉も言うのに「たった1秒」しかかかりません。お互いのやりとりでも2～3秒です。1秒で相手によい印象を与え、相手も幸せな気持ちになってもらうか、1秒を惜しみ、印象を悪くし、相手を嫌な気持ちにさせてしまうか。挨拶にはメリットしかないのに、世の中には、なぜそれをやろうとしない人がいるのでしょうか・・・挨拶ができない人は、きっと挨拶することのメリットを実感したことがない、または敢えてしないことで相手を不快にさせる、もしかしたら攻撃している意図があるのかもしれない。後者のような人がいない社会になってほしいと思いますが。

私の好きな歌手の曲に「おつかれさまの国」という歌があります。台中の職員室もそうですが、大人になると「お疲れ様です！」という挨拶が飛び交います。この言葉も、たった1秒でお互いの関係を良好にする魔法の言葉です。 「おつかれさまの国」にいる私たちだからこそ、もっともっと挨拶を大事にしていきたいですね。

4 4日間の長い夏休みが始まります！

生徒も先生方も、4月から今日まで走り続けてきました！明日から暦の関係で4日間と長い夏休みが始まります。この間、部活動等で会う生徒以外は、私たちが見守ることはできません。海、川、プール等での水難事故、交通事故、様々なトラブル、思春期だからこそその悩み・・・ご家庭での注意や言葉がけ、見守りなど、全ての生徒が大きく成長した姿で夏休み明けを迎えられるよう、ご協力をお願いします！



美術部の作品が湘北地区ボランティアセンターのシンボルに！

7月16日（火）、湘北地区ボランティアセンターにて、本校美術部が作った看板の除幕式が行われました！

昨年度11月に依頼を受け、美術部が7ヶ月かけて完成させた看板がボランティアセンターのシンボルとして入口に設置されました。当日は、タウンニュースの取材も入り、部員たちは、作品にかけた想いや、自分たちの作品が実際に設置されているのを見た感想などを、カメラの前で堂々と答えていました。

この7月は、夏の大会もあり、運動部の活動が目立ちますが、美術部の日々の取組が、今後の地域のシンボルとなることに喜びを感じました。

4月に着任し、作品には直接何もかわっていない私ですが、除幕式の最後の挨拶をさせていただき、部員たちに次のような話をしました。

設置された看板と美術部の生徒の写真が入ります。

- *多くの部活動は、主に自分のスキルアップやチームとしての目標達成のために活動している。
- *美術部の活動は、個人で作品制作に取り組んでいるときは、自分の好きなことや想いの実現のためだが、今回のように、自分のためだけではなく、「誰かのため」に何かをするということは、これから生きていくうえで大切なこと。
- *きっと皆さんが構図を考えたり、描いたりしているときには、何度も、喜んでくれる「相手」を意識したはず。
- *これから、「誰かのために」と思って行動したことすべてに対して、必ずしも感謝の気持ちや言葉が返ってくるとは限らない。それでも、「誰かのために」行動することは周囲を笑顔や幸せな気持ちにさせる。
- *今日は、たくさんの「ありがとう」の言葉と気持ちをボランティアセンターのスタッフの方々からもらった。
- *この経験は、普段の授業では得られない大きな学びになったはず。
- *これからも、「誰かのために」行動することの素晴らしさを忘れないでほしい。



顧問の先生より・・・

- ・日頃、自分たちの成果や作品を外部へ発信する機会のない美術部にとって
- ・今回の機会はとても貴重な経験になりました。制作を通して、互いの技術力を
- ・認め合い、高め合う場面も見られ、生徒の成長を感じることができました。いつもお世話になっている「地域のため」に貢献できたことで、「自分たちの力が
- ・地域の役に立つんだ」という自信にもつながったのではないかと思います。

オンライン面談が可能なスクールカウンセラーが配置されます。

現在、本校では、川口ひろみスクールカウンセラーが勤務していますが、この度、県の新しい事業「市町村立小・中学校におけるオンラインによる不登校の児童・生徒支援事業」により、8月26日（月）以降、原則として、毎月曜日、火曜日の勤務で、オンライン面談も行えるスクールカウンセラーが配置されます。



対面でのカウンセリングが困難である生徒及び保護者に対するオンラインによる遠隔の面談ができるスクールカウンセラーですが、当然、学校での対面でのカウンセリングも行えますので、本校としては、川口スクールカウンセラーと2人体制で、週に複数日配置することができるようになります。詳細については、夏休み中にCOCOOにてお知らせいたしますのでご確認ください。

教頭先生のつぶやき・・・

夏の総合体育大会が始まり、3年生にとっては、中学校生活最後の大会となります。いくつかの競技で応援に行かせてもらいましたが、ソフトボールでの外野を守っている生徒のチームを鼓舞する大きな声や、サッカーでのハーフタイム時にキャプテンがチームのことを考えた魂のこもったアドバイスなどをメンバーに伝えている姿など、普段学校で見ることができない素敵なシーンをたくさん見ることができました。わずか3年間の部活動かもしれませんが、一瞬一瞬を全力で取り組んでいる姿は、眩しく輝いて見えました。こういった姿を見ることが出来る教員という職業の魅力を改めて感じる事ができた時間となりました。